

会 議 録

会議の名称	第3回茨木市地球温暖化対策推進委員会
開催日時	平成23年11月29日（火） 午後3時 開会 ・ 午後5時30分 閉会
開催場所	茨木市役所 南館3階防災会議室
委員長	玉井 昌宏
出席者	磯崎 強志、今堀 洋子、大石 ひとみ、加藤 浩幸、京極 理、 黒川 裕之、鈴木 眞由美、玉井 昌宏、西島 貞夫、藤田 紫、 村瀬 径介、山口 容平 (12人)
欠席者	(0人)
傍聴人	7人
事務局	島本環境政策課長、 松本環境政策課長代理兼政策係長、井澤職員、 畑中第2計画部長、中川研究員、山崎研究員（株）地域計画建築研究 所大阪事務所 (6人)
議題（案件）	1 議題 (1) 茨木市地球温暖化対策実行計画骨子素案について 2 その他 (1) 第4回推進委員会の開催日時について
配布資料	1 茨木市地球温暖化対策実行計画骨子素案 将来推計（BaU）のケース設定の詳細 地球温暖化対策としての目標設定について 座席表

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	開会
	1 議題
	(1) 茨木市地球温暖化対策実行計画骨子素案について
	事務局より説明
	・目標設定について(第1章～第3章1節について説明)
	山口委員より説明
	・目標設定について参考資料をもとに説明
K 委員	山口委員の提案について賛成する。数値を色々設定するよりは、茨木市のやる気を見せることができるような第一歩を示せばよい。小さくてもよいが、茨木市内の具体的な場所を設定し、2050年を先取りするようなことがあればよいと思う。
事務局	今回、震災前の需要の設定や機器の効率で設定したものと、社会の変化を考慮したものについて、成り行きを排出量を推計し比較した。
E 委員	推計結果を見ると、2020年の値と目標値に大きな差があるので、達成できない目標値を掲げるよりは、2050年に大きな削減に結びつくような小さな変化を2020年時点では起こしてはどうかというのが山口委員からの提案である。
G 委員	電気の排出係数について、資料にある排出係数の論文では、2050年は見通していないので取り扱いは難しいかと思う。また公的なものでもないので、茨木市としての資料に載せるのは不適切だと思う。
A 委員	前回の議論では上限下限の設定程度でよいのではないかということだった。今問題になっているのは、電力事情によって出る影響に幅があるということで、茨木市はその振れ幅とは関係なく検討したいというのが、作りたいメッセージである。今回の資料に足されていけばよかったのが、エネルギーの使用量のグラフである。排出量は、エネルギー使用量に対して、二酸化炭素排出係数の幅で決まる。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
L 委 員	データとしてイメージを掴むためのことなので、論文についても出して良いと思う。現実問題として、原発の今後の開発は難しいと思う。ではどうなるかというイメージを掴むために有効な資料であると思う。
G 委 員	エネルギー消費量で見ると、排出係数は関係ない。排出係数の話を出すのであれば、もし排出係数が最も大きくなるケースにおいても、どの程度のことをしていけば目標を達成できるのかを示すという目標の立て方をするということが。
A 委 員	排出係数の話を出すのであれば、そういうことである。エネルギー消費量ベースであれば、排出係数に関係なくエネルギー消費量の目標を立てればよい。
事 務 局	エネルギー消費量ベースであれば、今回の推計では、最もエネルギー消費が少ないケースで、90年比で94%程度の想定となっている。二酸化炭素排出量については排出係数により大きく減少させているが、エネルギー消費量の幅はあまりない推計となっている。
A 委 員	参考資料 では、日本全国の家庭部門について、2010年については1990年からエネルギー消費量は少し増えている。茨木市については、産業部門で減少し家庭部門で増加し、全体としては同傾向だと思う。2020年・2025年までに何もしなければ、1990年のレベルよりも低くはならない。色々な省エネルギー努力をすれば、約30%削減程度にはなると推計されている。
G 委 員	部門別の二酸化炭素排出量目標であるが、大企業だけ総量というのはいかがか。
事 務 局	温対法の公表制度の対象となる企業については、市の主たるマネジメントの対象からは外すという意図がある。外した結果、国の目標設定になれば、総量での設定となる。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
L 委 員	民生部門は二酸化炭素排出量総量の39%程度である。1990年から2008年にかけて削減されたのは、産業部門が大半である。民生部門はほとんど減っていない。この夏の節電でも民生部門は3%しか減らせなかった。
事 務 局	計算では、民生家庭部門について、一人あたりの二酸化炭素排出量が増えている要因として、世帯人員の減少、つまり核家族化が80%程度効いている。
J 委 員	二酸化炭素排出量がエネルギー消費量かという点について、今は二酸化炭素排出量で議論されているが、エネルギー消費量で設定する場合、一般消費者からすると二酸化炭素排出量ではいまいちピンと来ない。
H 委 員	二酸化炭素排出量ではないとなると、反対にピンと来ないかもしれない。
F 委 員	努力している家庭もあるので、その人たちが発信できるような、そういう取組であればよいと思う。家庭部門の削減のために、取り組んでいる人の努力を引き出せるような取組があってほしい。
E 委 員	今回第3章で行われた検討は、本編には載せないにしても、参考資料としては載せるのがよいと思う。
E 委 員	目標値と施策は結びつくのか。
事 務 局	二酸化炭素排出量として2020年に目標を設定するのであれば結びつけていく。もし山口委員のご提案のように、2020年に二酸化炭素排出量で目標設定しないのであれば、厳密に数字をつなげていくわけではなくなり、社会変化に関するモニタリングが重要となる。本日の意見を受け、次回提案をしたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	事務局より説明 ・基本方針、当面取り組むことについて(この間行った庁内ヒアリング及び、第3章2節～第4章について説明)
K 委員	民生部門において、世帯人員が少なくなることが二酸化炭素排出量増加の原因だということである。エコビレッジ構想を作り、ともに住まいながらシェアする地域を作り、そこで80%削減を率先して達成するような施策もあるのではないかと思う。ライフスタイルの変革を促すきっかけになると思う。
E 委員	デマンドコントロールというのはどういうことか？
事務局	大規模工場跡地での低炭素まちづくりを意識している。需要側のエネルギー消費を、機器側で制限を加えるような仕組みのことである。
E 委員	工場跡地でなければできないことではないので、工場跡地という言葉は入れない方がよいのではないか。
J 委員	工場跡地での低炭素まちづくりは、茨木市としても象徴的に押し進めていく取組ではあると思う。
E 委員	現状ではメニューだけが並んでいる状態だが、二酸化炭素排出量削減への効果も含めて書いてほしい。
A 委員	プラス思考で、読んで楽しい記述にしてほしい。
J 委員	コンパクトシティというのは、既にどこかで出ている言葉なのか？
事務局	都市計画マスタープランにおいて、無秩序な市街地の拡散を防ぐことは示してある。関係課へのヒアリングでもそういった話があった。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
E 委 員	ヒアリング先では、地球温暖化対策として具体的に話が挙がっているような感じだったか。
事 務 局	ヒアリングに関しては、担当課の取組の中で温暖化に関する話を聞いた。エネルギーや二酸化炭素排出量削減に関しては、今後検討していかなければならないという認識を持っていた。
B 委 員	里地里山の大切さを共有するということだが、既に具体的な場所を設定されているのか？
事 務 局	現在、森林サポーターが100人程度存在し、彼らが活動を拠点としている里山センターもあり、NPO法人が指定管理を受けて運営を行っている。
B 委 員	小学校の総合的な学習の時間の題材としても良いと思う。中途半端で終わらないよう、大きな感銘を受けた方がリピーターとなるように、しっかりとした体制が整ってほしい。
E 委 員	環境教育はどこに入っているのか？2050年ともなれば、環境教育の視点も重要であると思う。
C 委 員	環境家計簿のことも取り入れられていないので、入れるとよいと思う。
事 務 局	まだ全て網羅できていない部分がある。今後追加したい。
F 委 員	福祉に関するような項目も取り入れてほしい。高齢者がマイカーを使わないようにするような福祉バス等があればよいと思う。南北で、交通機関の発達している部分と、そうでない部分がある。
事 務 局	今後の高齢化社会の中で重要なテーマである。福祉バスについて、現時点では担当課でそういう話は聞いていないが、今後そういった方向性があるかどうかは継続して確認したい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
G 委 員	第4章は茨木市の重要な方向性を示す部分であるので、しっかりと議論していきたい。
K 委 員	教育や福祉のこともあるので、原則はこれら4つでよいのかという疑問がある。
事 務 局	今回提示した4原則は、純粹に市の特性や、地域エネルギービジョンを踏まえ出した原則である。エネルギー教育については、5本目の柱を立ててもよいと思う。
B 委 員	2050年は遠すぎるのではないかと思う。原則という重い言葉の中に2050年という言葉を入れると、2050年でなければならないという印象を受けるし、今から40年何もしないのかという印象を受ける。2050年に向けてはこれから少しずつ積み上げていかなければならないこともある。そこまで先延ばしにしないといけないことなのかと思う。そうでなければ、2050という数字は省いてあくまで長期的に取り組むことを示せばよいのではないかと思う。
事 務 局	2050年という言葉を入れたのは、あくまで長期的なビジョンであることを示すために入れたものであり、取組に自由度が高まるのではないかという意図がある。そういう意味では、2050年という数字は省いてもよいとは思う。
	事務局より説明 ・ 進行管理について (第5章について説明)
E 委 員	計画に対して1つだけ専門委員会があるということか？ もしくは原則ごとにあるのか？
事 務 局	計画に対して1つだけあるということを考えている。
E 委 員	では、協議会というのとは何か？

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	専門委員会が、有識者など制限があるのに対し、協議会は広く開かれている場である。
E 委 員	推進のための具体的な案や仕掛けを作る場があるとよいと思う。
K 委 員	ワーキンググループや分科会のようにプロジェクトを動かすグループがあるほうがよい。
事 務 局	協議会がワーキンググループをイメージしており、助言や進行管理を専門委員会で行っていただくことをイメージしている。最初から協議会を作るのか、色々なことをやってみたいという小さな集まりから始めるのかは今後検討していきたい。
E 委 員	評価指標についても、ここで具体的に決めてよいのかと思う。
事 務 局	具体的なアクションを生み出していく組織体制としたい。必要最小限の協議会を立ち上げて、どのように部会を作っていくかがわかるような図や表現としていきたい。
A 委 員	減らすための仕事は面白くないので、推進方策を考えるときは、人の繋がりがたくさんできていくなど、新しく生み出していくようなことがあればよいと思う。
G 委 員	現在の温暖化対策推進委員会の任期は2年ということだが、具体的に推進していく協議会とはどう考えればよいか？
事 務 局	今後検討していきたい。何らかの形で、専門委員会や協議会で関わっていただけのようにしたいと考えている。
	2 その他
	・ 第4回地球温暖化対策推進委員会は、12月27日(火)午後3時より市庁舎南館3階防災会議室で開催

議 事 の 経 過

発 言 者

議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項

閉会